

外国人児童生徒初期適応指導教室「のぞみ教室」

美濃加茂市教育委員会 学校教育課

1 はじめに

本市の小中学校に在籍している外国人児童生徒は、全体の11.2%(626人)を占める。その中の42%(263人)の児童生徒が日本語の指導が必要な実態である。来日して間もなく、日本の生活にも慣れず、日本語が十分に理解できない外国人児童生徒に対して、日本語の指導とともに、日本の生活様式や文化に触れ、小中学校での学校生活に適応していくようにしていく支援体制の整備が強く求められている。本市においては、こうした状況を踏まえ、外国人児童生徒初期適応指導教室として「のぞみ教室」を開設して指導を行っている。

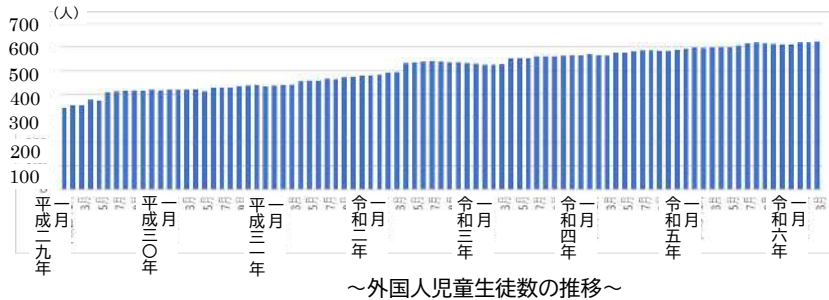


～「のぞみ教室」の外観～

2 美濃加茂市の外国人児童生徒の現状

(1) 外国人児童生徒の増加と散在化

外国人児童生徒数は、この10年間で2.2倍、日本語指導が必要な児童生徒は1.7倍に増加している。また、在籍数に違いが見られるが、市内全ての小中学校に外国人児童生徒が在籍するなど、市内での散在化も進んでいる。

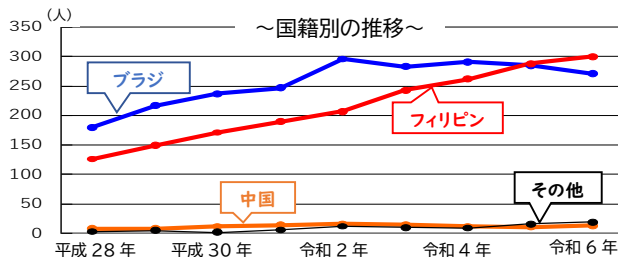


学校名	外国人の割合	学校名	外国人の割合
太田小	15.8%	西中	9.3%
古井小	21.0%	東中	14.7%
山之上小	5.6%	双葉中	1.8%
蜂屋小	1.6%		
加茂野小	8.3%		
伊深小	1.2%		
三和小	2.9%		
下米田小	5.2%		
山手小	9.5%		

～各学校での外国人児童生徒の割合～

(2) 多国籍化と多言語化

令和6年度の段階では、フィリピン国籍が最も多く、フィリピン国籍とブラジル国籍の児童生徒が全体の95%を占めている。この他に中国、パキスタン、ベトナム、スリランカ、ボリビア、ケニア、バングラディッシュと多国籍化しており、多言語化が進んでいる。



【主な言語】
英語、タガログ語、ピサヤ語、ポルトガル語
中国語、ウルドゥー語、ベトナム語
シンハラ語、スペイン語、スワヒリ語
ベンガル語

3 初期適応指導教室「のぞみ教室」について

(1) 目的

日常生活に必要な日本語や日本の学校生活に適応する力をつける。

(2) 対象

美濃加茂市内に在住している6歳から15歳までの外国人児童生徒

(3) 場所

美濃加茂市立古井小学校の敷地内



～小学校1年生の教室～

(4) 開級期間と時間

【開級期間】 市内の小中学校と同じ

【開級時間】 月曜日～金曜日 8時30分～15時



～中学生の教室～

(5) 通室について

・バス(13人乗りワゴン車)による送迎

(※複数の集合場所を位置付ける。)

(6) 日課 (※古井小学校の時刻に合わせる)

朝の会	1校時 (個別指導)	2校時 (個別指導)	3校時 (集団指導)	4校時 (集団指導)	給食	昼休み	掃除	5校時 (集団指導)	帰りの会
-----	---------------	---------------	---------------	---------------	----	-----	----	---------------	------

※個別指導 → ・原則として就学する学年別で行う。

・就学する学年の学習指導を行う。

※集団指導 → ・日本語の習得状況に基づいて2～3グループに分けて行う。

・日本語指導、学習指導、学校生活への適応指導を行う。

(7) 指導体制

・4教室：「小学校1年生」「小学校中学年」「小学校高学年」「中学生」

(8) 教室在籍児童生徒 (令和6年4月8日現在)

学 年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
在籍数(人)	21	4	0	3	4	1	5	3	1	42
国 籍	フィリピン31人、ブラジル8人、パキスタン2人、ボリビア1人									

(9) 職員 (13人)

・主任指導員 3人 (対応言語：ポルトガル語・タガログ語、ビサヤ語、英語)

・指導員 10人 (対応言語：ポルトガル語、タガログ語、ビサヤ語、英語、中国語)

(10) 指導内容

【児童生徒に】

- ・学校生活をする上で必要となる日本語
- ・国語、算数・数学を中心とした学習
- ・音楽、図工、体育などの学習
- ・体験学習、進路学習
- ・日本の学校での生活様式や生活のきまり など

【保護者に】

- ・教育相談
- ・日本の小中学校の様子
- ・日本の学校教育の仕組み
- ・日本の生活や文化、地域での暮らし
- ・進路指導 など

(11) 指導期間

3カ月を目安とする (※個人差に応じ、指導期間を短縮または延長することもある。)

(12) 主催の行事

- ・就学前の日本語指導(幼保こ園にて) ・進路説明会(原則、中学生及び保護者)
- ・高校見学会(原則、中学生及び保護者) ・日本語能力テスト
- ・在籍学校への体験入学(1日間)

4 今後に向けて

多言語化が進む中で、多様な言語に対応できる職員体制をとっていく必要がある。現在は、「タガログ語・ビサヤ語」に対応できる職員の確保が求められる。また、小学校への入学を予定する外国人の子どもを対象にした、プレクラス等の初期適応指導体制の強化を図りたい。卒業して学校へ入った児童生徒を学校と連携して見届け、学校生活に不適応の様相を見せる児童生徒に対して、本教室で再指導していく体制作りも構築していきたい。